

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第7号 令和3年9月24日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

時が変わると



校長 堀田 稔

暑かった夏も過ぎ、風の冷たさや空の雲や色から秋が確実に訪れていることを感じています。コロナ感染症予防に取り組み、もう1年半が過ぎました。子ども達には今までと違うことが多く、申し訳ないと思うことが多いのですが、日ごろ接していると、子ども達の前向きな姿勢と変化に驚かされ、考えさせられることが多くあります。

清水小の先生方の取組

清水小学校では今年から、国語科を中心に、全教科でも語彙力を増やし、コミュニケーションの力を子ども達に豊かにつけてもらい、

- 多くのことを知り、先を想像でき、自ら考えられ、より良い生き方を選択できる。
- 心身共に健康でいじめのない、良好な人間関係が構築できる。
- いろいろな角度からの知識を増やし、確かな学力をより向上できる。

ようにするために、どんな授業をしていったらよいか、全担任が授業を先生方に見てもらい、話し合いを重ね授業への工夫をしています。机上の空論や美しい理論ではなく、今の清水小の子ども達に合わせた、「わかった」「できた」を大切に、子ども達が将来に向けて身につけ、役立たせることのできる授業を作っていこうと取り組んでいます。

どこで調べたの

そんな授業研究を先生方と一緒に見させてもらいながら、子ども達の本当の考えや思いを聞きたくて、隙を見ながら話しかけているのですが、「その言葉どこで知ったの?」「その調べている説明、どこで知ったの?」「今日は何がわかった(できた)の?」など聞いてみると、家の人に聞いた、本や辞書、図鑑、検索エンジン等ではなく、最近は「ユーチューブで調べたよ」と返事が返ってきます。生まれて初めて1語文などの言葉を発してわずか4~5年の低学年の子ども達の返事に、時代の変化を感じます。

言葉の使い方

子ども達の学習の中でよく文章やパンフレットやリーフレットにまとめる学習があります。また長期休業中の自由研究作品などでも多く見られますが、その見出しの書き方にも変化が見られます。以前でしたら「〇〇の育て方」などでしたが、今はユーチューブの題名などに多く使われ、人々の関心を引くように使われる言葉、「〇〇を育ててみた」というような見出しが多くみられます。

時代、接する環境の変化などで、言葉が変わってきていることは今までの短い歴史をみても感じられることですが、その変化を敏感に感じ取り、ただの真似で終わるのではなく、自分たちにとって、周りにとって、より良いものなのかどうか、今は適切なのかどうか、しっかり考え、取捨選択して、自分の考えや思いを多くの人に正確に表現でき、相手のことも理解しようとする大人に育ててほしいと思っています。学校、地域、ご家庭での学習や会話等で、豊かなコミュニケーションの力を共に伸ばしていけたらと思っています。